の現場から

新領域創成科学研究科は一九九八年新設され、一九九九年度に全面的に創設され、大学院学生を受け入れ、研究教育を始めたばかりの大学院です。この研究科は、「物質」「エネルギー」「情報」「複雑系」「生命」「環境」という今後解決すべき問題領域をキーワードとして、超領域的にアカデミックに編成された各分野領域より構成されています。これらのキーワードは、いずれも既にその重要性が広く社会的に認知された未来科学の基幹ともいえる問題群です。そして同時に、個別的専門科学研究によっては解決することが不可能な領域であり、「学融合」としての超領域的な取り組みが必要とされるものです。

これらキーワードを基に、本研究科は三つの大きな研究系に分けられています。私たちが「基盤科学研究系」と呼んでおります、物質系専攻、先端エネルギー工学専攻、基盤情報学専攻、複雑理工学専攻は、約八〇名の教官から構成されています。「先端生命科学系」は、教官約三〇名、環境学専攻よりなる「環境学研究系」は六〇名の教官から構成されます。このように本研究科は、新たな二一世紀の解決すべき問題領域を解明・解決するため、あえて既存の研究領域を超えていく、知の冒険を試みようとしています。それは私たちにとっては「学融合」という方法で、文字どおり科学・学問の新領域を創成していく大学院です。

おそらく東京大学が始まって以来はじめて全学部支援の態勢で作り上げられました。すなわち、東京大学の法学部・経済学部・文学部・教養学部・工学部・理学部・農学部・薬学部等から参画した教授・助教授・助手等のスタッフは、実に一八〇名にもなります。

このような東京大学全体にとって新しい研究科を創設しようとする試みとその実現は、実に長い歴史を経てきました。それは、私たちがまだ学生であった一九七〇年代初頭に、立川の米軍基地跡に第三のキャンパスを建設しようという構想に始まりました。そして、一九九一年以降、東京大学が教育研究の基本を大学院に重点化しようと、次第に戦略が定まったのと軌を同じくして本格化しました。

東京大学が二一世紀を担う我が国の研究教育の世界に向けての発信の空間として、千葉県柏市の米軍通信施設跡地三八ヘクタールを、本郷・駒場に続く、第三のキャンパスとして取得しました。この地にその理想を実現する一環として本研究科が創設されたのです。

東京大学が柏キャンパスの理念として盛り込んだのは、既存キャンパスでは成しがたい、新たな「知の冒険」を行うことです。この「知の冒険」を支える精神は、五つの内容によって構成されています。

第取日移や日鵜　しが　簡旬。

さまざまに新しい試みを行う研究科が期待どおり実現するか、一〇年後、二〇年後にも新領域創成科学を生み出す研究科と言えるか、こうした検証に耐えるようにスタッフはがんばっております。ご声援ください。

似田貝香門（にたがい・かもん　新領域創成科学研究科長）